

## 第 139 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『継続は力なり』 ～ 『純度の高い専門性と社会的包容力の復習』 ～

2022 年 12 月 8 日午後、ルーテル学院大学(東京都三鷹市)での授業『現代生命科学 2 : 病理学』を『教科書 : カラーで学べる病理学』用いて【『「消化器系」 : 胃がん、腸の疾病 ; 虫垂炎、腸閉塞症、ヘルニア、腸管の感染症、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸腫瘍、肝・胆道・膵の疾病 ; 黄疸、ウイルス性肝炎、脂肪性肝障害、肝硬変症、肝がん、胆嚢炎と胆石症——』】の箇所を音読しながら進めた。真摯な学生の姿勢と多数の質問には大いに感動した。

夕方は、筆者が第 3 代代表を務める南原繁研究会(第 221 回)(Zoom)に出席した。今回は、『南原繁における学問と政治』(南原繁研究会編 2022 年 横濱大氣堂発行)の【『第 1 章』 : 第 18 回南原繁シンポジウム「南原繁における学問と政治～南原政治哲学を読み直す～ : 「南原政治哲学における学問的射程とその意義」、「戦後日本における「批判主義的政治学」の諸類型」、「南原繁と戦後西欧政治思想」、「南原繁の学問と政治」 ; 『第 2 章』 : 東京大学ホームカミングデー 南原セミナー : 「ポスト福祉国家を考える」 ; 『第 3 章』 : 南原繁をめぐって : 「まえがき」、「2020 年に出会ったキリスト教」、「南原繁とヒルティ」、「リベラルアーツ」、「第一次世界大戦期における B. ラッセルの政治哲学と南原繁」、資料紹介 : 「『交進雑誌』『長岡郷友会雑誌』に見る小野塚喜平次」、「『政治哲学』と絶対弁証法」、「南原繁『天皇退位論』の再構成」、「あとがき」】の合評会であった。『純度の高い専門性と社会的包容力の復習』である。

南原繁(1889-1974)は、新渡戸稲造(1862-1933)と内村鑑三(1861-1930)から大きな影響を受けた。筆者は、南原繁が東大総長時代の学生(法学部、医学部)であった恩師から、南原繁は、『高度な専門知識と幅広い教養』を兼ね備え『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士』と教わったものである。一見「理解不能モード」である複雑な現代社会・混沌の中での「一筋の光」を感じる日々である。2022 年 11 月 3 日(文化の日、学士会館に於いて)は、第 19 回南原繁シンポジウム『日本の近現代史における南原繁 ～ 「明治維新から敗戦まで」と「戦後日本」における役割 ～』が開催された。南原繁シンポジウムは、2004 年に第 1 回が始まり、『継続は力なり』を実感する。